

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	川崎市中部リハビリテーションセンター 中部地域生活支援センター	評価対象年度	令和6年度
事業者名	・事業者名 社会福祉法人 川崎聖風福祉会 ・代表者名 理事長 中澤 伸 ・住所 川崎市川崎区池上新町3丁目1番8号	評価者	障害者施設指導課長
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日	所管課	健康福祉局障害保健福祉部 障害者施設指導課

2. 事業実績

利用実績	相談支援活動件数 6,700件 地域活動支援センター登録者数 208名 (令和7年3月31日現在)				
収支実績	【R6】				
	収入		支出		収支差額
	経常活動	41,105,578円	経常活動	39,869,201円	1,236,377円
	給付費	1,823,163円	人件費	29,943,895円	
	川崎市単独扶助	0円	事務費	7,098,297円	
	指定管理委託料	38,600,000円	事業費	2,827,009円	
	その他	682,415円	その他	0円	
	合計	41,105,578円	合計	39,869,201円	
サービス向上の取組	・精神疾患を持つ方の「生きづらさへの理解」と「こころのケア」を大切に考え、丁寧に温かい相談支援を行うとともに、利用者の思いを中心に、利用者とその家族を取り巻く生活環境に着目しながら、アセスメントを実施した。また、利用者に関する情報共有を職員全員で行い、担当の有無に関わらず、利用者の現状を全職員が把握するように努めた。 ・ハートフル川崎病院と連携し、ピアサポート事業の一環として、入院患者に対し、地域移行への動機を高めることや、地域での生活のイメージづくりと不安軽減を目的に、テーマを決めて話を行う「ハートウォームの会」を新たに実施した。				

3. 評価（評価段階:5～1,標準:3,加点割合:5→100%,4→80%,3→60%,2→40%,1→0%）

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
総合的な運営状況	利用者への支援	利用者に対する支援を着実に実施しているか	10	3	6
		利用者の障害特性に応じた個別支援等を実施しているか			
	事業成果	基本協定に規定する業務の範囲を適切に実施しているか	10	4	8
		指定管理施設としての事業目的を達成することができたか			
	<div>(評価の理由)</div> <div>【利用者への支援】</div> <div>・地域活動支援センター事業では、利用登録者の最新の生活状況を把握し、適切な支援ができるよう、利用登録を年度更新制に変更し、更新のための面談を順次実施した。</div> <div>・ピアサポート活動では、ピアサポーターと協働で「田園調布学園大学社会福祉学科」の学生との交流講座を実施したほか、学修支援プログラムとして、精神障害者の理解というテーマで出前講座を実施した。交流講座では、学生に地域資源を知ってもらうことを目的に、事業所の紹介やピアスタッフ、ピアサポーターのリカバリーストーリーの発表、学生からの質疑応答などを実施した。</div> <div>【事業成果】</div> <div>・地域活動支援センター事業では、令和5年度から開始した毎月の女子会の開催により女性利用者が増えたほか、食事会の開催頻度を増やし新型コロナウイルス感染症流行前の参加定員数まで戻したことなどから、1日当たりの平均来館者数では、令和5年度の16.8名から令和6年度は18名となり、増加につなげることができた。</div> <div>・地域移行・地域定着支援体制整備事業では、継続ケース9件と新規ケース7件の支援に取り組み、そのうち3件は病院からの退院後にグループホーム等に移行させることができた。グループホームに移行したケースでは、入院中は地域移行支援計画書の作成や個別給付申請を行い、退院後は計画相談を担うことで、地域での生活も不安なくソフトランディングできる支援を行った。</div> <div>・特定相談支援事業では、依頼件数が増えたことに加え、令和5年度の途中から相談支援専門員が1名増加したことにより、新規ケースが10件あり、継続ケースと合わせて26ケースの計画相談に携わり、令和5年度と比較し、より多くのケースに支援を提供することができた。</div>				
収支状況	支出状況	計画に基づく適正な支出が行われているか	5	3	3
		支出に見合う効果等が図られているか			
	収入状況	計画通りの収入が得られているか	5	3	3
		条例に基づく利用料等を適切に徴収しているか			
	適切な会計手続	会計基準に基づく会計処理がなされているか	5	3	3
		事業収支に関して適正な会計処理がなされているか			
<div>(評価の理由)</div> <div>【支出状況・収入状況】</div> <div>・支出状況については、提案額や当初予算に基づき概ね執行計画に沿って適正に支出された。</div> <div>・収入状況については、令和6年度から計画相談支援の対象を地域活動支援センターA型事業の利用者以外にも対象を拡大したことから、計画相談の給付費が増え、予算よりも収入が増加した。</div> <div>【適切な会計手続】</div> <div>・社会福祉法人新会計基準に基づき会計処理を行った。法人が委託した2名の税理士が毎月財務状況を確認し、修正事項が認められた場合には、速やかに適正な会計処理となるように内部のチェック体制を整えている。また、決算時に監事監査を実施し、決算書類等が適切かつ適正に作成されているかの監査を実施した。</div>					

サービス体制	適切なサービスの提供	提供すべきサービスが仕様書や実施計画等に基づいて適切に提供されたか	10	3	6
		利用者への支援を適時かつ十分に行っているか			
	サービス向上への取組	現状分析、課題把握等を常に行っているか	5	4	4
		サービス向上に向けた取組がなされているか			
	利用者の意見・要望への対応	意見・要望の収集方法を確立しているか	5	3	3
		利用者からの要望や意見に対して、迅速かつ適切に対応しているか			
	(評価の理由)				
	【適切なサービスの提供】				
	・利用者の高齢化が進む中で、利用者自身の意思を丁寧に汲み取りながら、親の介護や親亡き後を見据え、障害・高齢の双方の事業所間の連携による支援体制づくりの一環として、中原区内の地域相談支援センターと地域包括支援センターとタイアップし、「はじめて知る介護保険」セミナーを実施した。				
	・地域移行・地域定着支援推進会議に施設職員2名、ピアスタッフ1名、ピアサポーター1名が参加し、事務局としてだけでなく、「ピアサポーターの実態調査」を行い、市内のピアサポート活動の基礎データの集計・分析を行った。				
・精神疾患に加え、知的障害との重複障害、LGBTQ等の多種多様な方が施設を利用されることから、多角的な視点でのアセスメントを行う必要があり、関係機関とのより一層の協力体制が必須であるため、個々の状態像に合わせて、中部リハビリテーションセンター内の地域支援室、在宅支援室及び日中活動センター等に連携協力を依頼し、支援に取り組んでいる。					
【サービス向上への取組】					
・ハートフル川崎病院と連携し、ピアサポート事業の一環として、入院患者に対し、地域移行への動機を高めることや、地域での生活のイメージづくりと不安軽減を目的に、令和6年5月から翌2月まで月1回(計10回)、施設職員、ピアスタッフ、ピアサポーターが病院訪問し、入院前の生活や退院後の楽しみなどのテーマを決めて話を行う、「ハートウォームの会」を令和6年度から新たに実施した。					
・法人内の入所施設や養護老人ホーム、相談支援事業所等が集まり「地域移行・定着支援の勉強会」を開催し、地域移行及び地域定着支援に特化した事例検討を実施したほか、入院者訪問支援事業に関する伝達研修を実施することで、利用者へのサービスの質の向上を図った。					
・日々の職員ミーティングでは、利用者に関する情報共有を職員全員で行い、利用者の現状について職員全員が把握するよう努めた。また、週に1回、施設運営のスーパーバイザーを交えて1、2時間程度に拡大した職員ミーティングも実施し、支援困難なケースの事例検討や施設運営における課題の共有化などに取り組んだ。					
【利用者の意見・要望への対応】					
・意見・要望等に対しては迅速かつ誠実に対応するとともに、職員間で意見交換しながら問題の早期解決に努めた。また、定例の利用者ミーティングで周知したほか、利用者の意見等を施設運営に反映するよう努めた。					
組織管理体制	適正な人員配置	必要な人員が必要な場所に適切に配置されているか	5	3	3
	連絡・連携体制	所管課との連絡・連携が十分に図られているか			
	担当者のスキルアップ	業務知識や安全管理、法令遵守に関する研修等が行われているか	5	3	3
	安全・安心への取組	事故、犯罪、災害等から利用者を守ることができる適切な安全管理体制となっているか(人員配置、マニュアル、訓練等)	5	3	3
		緊急時の連絡体制を構築しているか			
	コンプライアンス	法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用がなされているか	5	3	3
	職員の労働条件・労働環境	スタッフが業務を適正に実施するための、適切な労働条件や労働環境が整備されているか	5	3	3
(評価の理由)					
【連絡・連携体制】					
・事故等の重要案件の発生時は、所管課をはじめ、関係機関や法人本部に速やかに報告を行うことを徹底している。					
【担当者のスキルアップ】					
・職員の資質の向上のため、法人内研修や外部研修等の各種研修に参加し、相談支援に関する知識や技術の習得のほか、倫理観、権利擁護意識の向上等を目的に、令和6年度は内部研修に2回、外部研修に8回参加するした。また、外部研修を受講した職員が、職員ミーティングで報告や伝達研修を実施することで、全職員で研修内容を共有した。					
【安全・安心への取組】					
・事故が発生した場合、事故の原因究明及び分析と、今後の改善策等を発生後すぐに所内で検討し、改善に努めている。					
・中部リハビリテーションセンター内の全事業所で年2回、合同防災訓練を実施しており、第1回は火災発生を想定、第2回は地震と火災発生を想定して行った。またアルファ米や飲料水などの非常食について、事業所の定員数と職員数分の3食、3日分の備蓄をしている。					
【コンプライアンス】					
・令和6年度から引き続き、年2回開催される法人内の虐待・身体拘束防止対応委員会に施設長が参加し、事業者間で課題の把握や分析、今後の改善策等の検討を行った。また、当施設内でも、虐待防止担当者(管理者)、受付担当者を中心に、上半期は外部研修を受講した職員による伝達研修や実際の事例をもとに意見交換を行い、下半期には、全国社会福祉協議会版のセルフチェックリストを活用等を行うことで、日頃の支援に対する振り返りを行うなど、所内全体で権利擁護や虐待防止の意識の向上に努めた。					
【職員の労働条件・労働環境】					
・法人の安全衛生委員会による職場巡視を実施し、その際あった指摘事項を速やかに改善するなどにより、労働環境の把握、改善に努めた。					

適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	3	3
	管理記録の整備・保管	業務日誌・点検記録・修繕履歴等が適切に整備・保管されているか	5	3	3
	清掃業務	施設内及び外構の清掃が適切に行われ、清潔な美観と快適に利用できる環境を維持しているか	5	3	3
	警備業務	施設内及び敷地内の警備が適切に行われ、事件・事故・犯罪等の未然防止に役立っているか			
	備品管理	設備・備品の整備や整頓、利用者が使用する消耗品等の補充が適切に行われているか	5	3	3
(評価の理由) <b>【施設・整備の保守管理】</b> ・中部地域支援室が一体的に保守管理を行っており、利用者が安心、安全に施設を利用できるよう、建物や施設整備のため、空調やエレベーターの保守点検を実施している。 <b>【管理記録の整備・保管】</b> ・業務日誌、ケースファイルは、鍵付きキャビネット内に保管している。また、カンファレンス等で個人情報が含まれる書類を外部へ持ち出す際は、管理簿でいつ、誰が、どんな理由で持ちだすのかを記載するとともに、戻った際は、いつ戻したのかを記録し管理している。 ・PCのセキュリティ対策のほか、外部機関へのメール送信時の添付ファイルにはパスワードを設定するとともに、FAX送信時には誤送信防止のため、二重の確認を行うなど、所内での管理体制を統一し、徹底している。 <b>【清掃業務・警備業務】</b> ・施設内の日常清掃、定期清掃等や、警備業務については、中部地域支援室の調整のもと、業務委託などが行われている。 <b>【備品管理】</b> ・備品台帳にて法人本部とも連携して管理を行い、消耗品の管理も管理簿をもとに定期的に担当がチェックし、計画的な補完・補充に努めながら在庫管理を行った。					

#### 4. その他加算

分類	項目	着眼点			評価点
その他加算	市の政策課題への取組	第三者へ一部の業務委託を行う際の市内中小企業者の受注機会の確保・拡大や地域包括ケアシステムの構築に向けた取組への協力、障害者の法定雇用率を越える雇用などを行っているか			1
	(評価の理由) ・ピアサポート活動に興味がある方のための入門編の講座となることを目指したピアサポーター講座を共催するとともに、ピアサポート活動に関する現状報告や今後の課題などを検討するピアサポート活動支援連絡会に参加した。また、精神科病院へ当施設の実施事業に関する説明や、田園調布大学への出張講座など、ピアサポートの活動支援を行った。				

#### 5. 総合評価

評価点合計	64	評価ランク	C
-------	----	-------	---

評価点合計:100点満点,標準点:60点

評価ランク:A〜E,標準:・C,A→80点以上,B→70点以上80点未満,C→60点以上70点未満,D→50点以上60点未満,E→50点未満

A→特に優れている,B→優れている,C→適正である,D→改善が必要である,E→問題があり適切な措置を講じる必要がある。

#### 6. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

・利用者ミーティング等を通じて意見や要望に対して迅速に対応できるよう取り組むとともに、また支援困難なケース事例などについてはスーパーバイザーに相談するなど、施設運営での課題の共有等を職員同士で十分に話し合いながら課題解決に取り組んだ。  
 ・ハートフル川崎病院と連携し、令和6年度から「ハートウォームの会」を実施するなど、ピアサポートや地域移行・地域定着に対して、関係機関と連携して取り組んでいる。

#### 7. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

・行事開催等による来館者数を増やすための取組や令和6年度から開始した「ハートウォームの会」の実施など、引き続き、本施設の役割を十分果たせるよう、安定的な運営とより良いサービスの提供に努めること。